10／23(金)14:00～15:30
於　プレゼンテーションルーム

令和8年度　足助高校　第2回学校運営協議会　提言・意見交換

〔テーマ〕 地域と連携した教育活動の充実について
「地域連携」、「生徒の様子」「地域貢献活動」「保護者・地域から見た学校への期待」等の観点から、ご意見いただく。

〔提言・意見〕

（足助交流館長 ： 宇和佐 顧問）

- 6月のコンサートでは、足助高生が司会をしてくれて、参加者の皆さんに例年以上に喜んでいただいた。今後も機会を作っていきたい。
- 今年、交流館に麻雀卓が入り、高齢者の皆さんが麻雀を楽しんでいる。昨年度、探究活動で麻雀をやりたい足助高生が来てくれたが、また来て高齢者と交流してほしい。
- 飯盛座で、プロジェクト報告会が予定されている。飯盛座には立派な舞台照明やマイク設備がある。興味を持ってもらえるものだと思うので、発表会の準備も一緒にして、見てほしいと思う。

（足助商工会長 ： 村上委員）

- 商工会として、特に足助の町並みの活性化に取り組んでいる。滞在型の、そして、一年中来訪がある観光地を目指している。また、外から来てくれる人たちに、足助で商売をやってもらおうという取り組み(関係人口の増加)もしている。足助高校に観光科が設置されたことから、こういった取り組みを掘り下げて関わり、足助のまちづくりに貢献してほしい。

（足助まちづくり協議会代表 ： 横地委員）

- 足助を復活させたいとの思いで活動している。「関係人口」の増加を目的に、古民家の内装リフォームなどに取り組んでおり、3年後には旧田口家住宅がホテルになる予定。足助高生に利用してほしい。
- 「祭りができなくなるとまちがなくなる。」足助高生には足助祭りに参加をお願いしているが、遠方からの生徒が多いことが残念。祭りに参加した後、足助に泊まって、食事を共にし、祭りの感想、意見交換するなど、どっぷり参加してほしい。

（三河の山里コミュニティパワー取締役事業本部長 ： 関原委員）

- 足助高生が探究活動で、計画している小水力発電を見学してくれた。トヨタ自動車の方と三者で実験したり、高校生が地域の企業と一緒に学べることが良いと思った。こういう接触を増やしていきたい。
- 観光科の生徒が、借り上げた古民家を宿舎として住んでいる。生徒の住まい問題に、皆さんと協力して対応したい。足助高生には、この地域に住んで、地域の方と触れ合いながら観光を学んで欲しい。
- 足助高校と企業や地域との取り組み、少人数教育などのすばらしさを外部にアピールするのがよい。
- 足助のまち並みに、高校生がふらっと立ち寄り、地域の人とも交流できる、「しきしまの家」のような「場」があるとよいと思う。気軽に交流できることで生まれるものがあると思う。

（愛知県観光コンベンション局観光振興課 ： 小峰アドバイザー）

- ツアー一つ作るのも、地元とのやり取り、参加募集など大変である。それを生徒が頑張っている。会議に先立ち、生徒がバスツアーや謎解き企画を紹介してくれて、主体的に取り組む姿が良かった。
- 地元の課題を解決するとの視点があると思うが、県全体で協力できることもあるかもしれないと思うので、PR の協力等、できることがあれば協力したい。

（みよし市教育委員会 ： 山内アドバイザー）

- 県内の他のコミュニティースクールの手本になるのが足助高校と感じる。どう地域とかかわるか、どこも模索している。本会議のように、地域の方と深く意見交換できることは素晴らしい。今日は生徒の話も直接聞けた。
- 小原にバスツアーで来てもらったところ、Instagram の閲覧数が増加した。足助高校の効果だと思う。今後は「中山間地域の詰め合わせ」のような企画を期待したい。

（豊田市役所足助支所長 杉浦委員 代理 ： 八木様）

- 足助地区の学校再編とまちづくりの検討を地域住民と始めている。足助の小中学校でも、足助らしい学びや探究学習を主眼に進めることを方針としており、足助高校と目指すところは同じである。一緒になって考えていきたい。

（足助高校前 PTA 会長 ： 鈴木委員）

- 足助高校 TikTok の教員紹介を楽しく見ている。子どもたちは、TikTok や Instagram などの SNS をよく見ているので、積極的に活用し、魅力的な教員がいることを発信するのが良いのでは。

（足助高校 PTA 会長 ： 柳沢委員）

- 本会議で地域の皆さんと学校とがつながることについて実感できた。
- 探究活動での個々の取り組みを生徒同士が共有することで、さらに興味・関心が広がるのではないか。

（稲武中学校長 ： 鯖戸委員）

- 稲武中学校では、生徒数減少に伴い、稲中フェスティバルでの体育大会の開催が難しくなり、地域参加型の種目や文化発表を行い、地域のキッチンカーを招いて皆で昼食を楽しんだ。足助高校に通っている本校卒業生たちも、良い表情で参加してくれた。
- 地域の学校は大切。稲武、旭地区には高校がないので、足助高校には、稲武・旭地区にもかかわりや探究活動を広げてほしい。

（旭中学校長 ： 近藤委員）

- 足助高校のバスツアーの取り組みに学んで、旭中3年生がバスツアーを企画した。これは旭地区の大人たちにも刺激になって、自分たちも何かしようという思いにつながった。
- 高校生は、年齢の近い中学生に教えて欲しいと言われれば、しっかりしたい、わかりやすく伝えたいと思ってくれるのではと考える。中高連携を深めていきたい。

（三州足助公社社長 ： 岡村委員）

- 観光の最前線で長く活動してきたが、関係者は顔ぶれに変化が少ない。高校生の新しい感覚から意見を聞けることは大切と思う。足助高生には、もっと自分を出しながら、積極的にかかわって欲しい。

（足助高校同窓会長 ： 鈴木会長）

- プロジェクト報告会には、稲武・旭地区の方にもご参加いただけるよう、PR していきましょう。

※ 旭地区しきしまの家には、学校運営と共通するところがある。高齢化・人口減少が進む中、どうやって幸せに暮らしていけるかを考えている。地域がまとまり、地域外の力を借りることを近年進めている。学校においても、生徒の奪い合いには限界がある。小さくても続けていくこと。また、足助・稲武・旭地区の足助高校を選んでくれる生徒と、全県にいる田舎の少人数学校や探究活動に魅力を感じる生徒のハイブリッドでやっていくことが、しきしまとの共通点と思う。　　（会長挨拶の言葉）

（愛知県コンベンション局顧問 ： 武田顧問）

- 生徒が、発表や報告の経験を重ねるたびに上手になり、成長を感じる。
- 足助高生が自分の言葉で話すことが、足助の認知度向上に貢献している。聞き手が応援してくれる。外の人たちに知ってもらうことで、つながりが増えて活動の幅が増すし、県内の学生たちも興味を持つと思う。引き続き頑張って欲しい。

